

武田 典久 議員



一問一答方式

- ① 観光施策
- ② 地域公共交通網形成計画
- ③ スポーツ行政

観光施策について

問 国は全国に約150万戸あると
言われる古民家の一部を活用
し、まちそのものを観光資源化する
取り組みを2020年までに全国
200地域で展開したいとしてい
る。すなわち、他の同様な組み
みをしている地域と差別化しないと、
競争に負け、埋もれてしまい、町
家、古民家改修工事にかかる費用の
回収ができない事態にもなりかねな
い。本市として、肱南エリアの町

家、古民家等の価値をどう評価して
いるのか。

答 観光産業として捉えた場合に重
要なのが宿泊機能で、消費を増
幅させ飲食店などの関連事業者を牽
引する働きを持ちます。町家活用工
リア計画を策定し、多様な観光事業
者の民間投資を促進させていきたい
と考えています。また宿泊が伴う観
光となると、ターゲットは近隣だけ
なく、インバウンドを含む四国外
からの観光客となります。少なくとも四
国内の他地域との差別化が必要であ
り、他地域にない観光資源を活用し、
民間事業者とともに、観光客の受け
入れ体制を構築していくことで差別
化を図っていきたいと考えています。

地域公共交通網形成計画について

問 本年度末の完成を目標に作成中
の地域公共交通網形成計画案を
拝見すると、交通空白地等は、今後
地域主体のデマンドタクシーに軸足
を移していくと理解したが、どのよ
うな取り組みになるのか。また、そ
の際には利用者に対し運賃の補助を
することは考えているのか。

答 基本的には、各自治会などのご
要望に基づき、現状や必要性な
どについて地区の皆様と勉強会を開
催し、実証運行を行うようになった場合
には、乗降場所や目的地、運行時刻
等をご協議いただき、市も一緒に
なって実証運行計画を作成してい
きます。利用者に対する補助制度は、
複数の方に乗車してもらえらる仕組
みづくりが前提となり、乗車人数や運
行距離などを踏まえ、一定の基準を
お示ししたいと考えています。な
お、実証運行の結果を踏まえ、本格
運行に向けた検討を進めますが、利
用者が少ない場合には、これまでど
おり、個人個人がタクシーをご利用
いただくことになり、デマンド運行
に移行した場合にも、利用者数や運
賃収入、運行経費など一定の基準の
もとで、運行継続などのあり方を判
断していくこととなります。

スポーツ行政について

問 スポーツツーリズムによる地域
活性化も期待されるが、特にス
ポーツと自然の親和性は高く、海、
山、川を有する本市にとって、ス

ポーツツーリズムの潜在力は高いの
ではないか。そこで、毎年秋に開催
されている「ツール・ド・ひじかわ」
について、今後どう位置づけてい
くのか方向性をお伺いする。

答 スポーツイベントの参加者と開
催地周辺の観光とを融合させる
スポーツツーリズムを推進すること
は、スポーツの振興のみならず、交
流人口の拡大や地域経済への波及効
果からも重要な取り組みであると考
えています。

平成26年度から開催している「ツ
ール・ド・ひじかわ」は、本市の魅力を
発信するため長浜大橋開閉など観光
要素を取り入れた中級コース、金山
出石寺や富士山などの自然を生かし
た上級コースの2コースで実施して
おり、本市の魅力をアピールする重要
なツールとなりますので、大洲市サ
イクリング協会や関係各課と連携し、
初心者やファミリー層も含めた観光
やレジャー志向の高い参加者もタ
ーゲットに、サイクリングを通じた交
流人口の拡大による経済効果や地域
の活性化につながるような組み
みを進めていきたいと考えています。